

# 摘花・摘果剤を利用することでリンゴ「ふじ」の摘果作業を省力化できる

福島県農業総合センター果樹研究所 栽培科

## 1 部門名

果樹－リンゴ－生育調節

## 2 担当者名

穴澤拓哉、山口奈々子

## 3 要旨

リンゴ「ふじ」において、摘花剤としてギ酸カルシウム水溶剤（商品名：エコルーキー）、摘果剤としてNAC水和剤（商品名：マイクロデナポン水和剤85）を利用することにより、その後の摘果作業を省力化することができる。

- 「ふじ」10年生を使用し、人工受粉実施1日後にギ酸カルシウム水溶剤（商品名：エコルーキー）を100倍、目通りの高さの中心果が直径7mm以上の時期（2022年は満開後15日）にNAC水和剤（商品名：マイクロデナポン水和剤85）を1,200倍で樹全体に散布した。
- 摘花剤、摘果剤を使用することにより、10a当たりの予備摘果及び仕上げ摘果に要する作業時間は30%程度（予備摘果で33%、仕上げ摘果で19%）削減された（図1）。
- 収量及び果実品質は、試験区、慣行区ともに差が見られなかった（表1）。
- 摘花剤、摘果剤ともに使用上の注意事項を確認する。

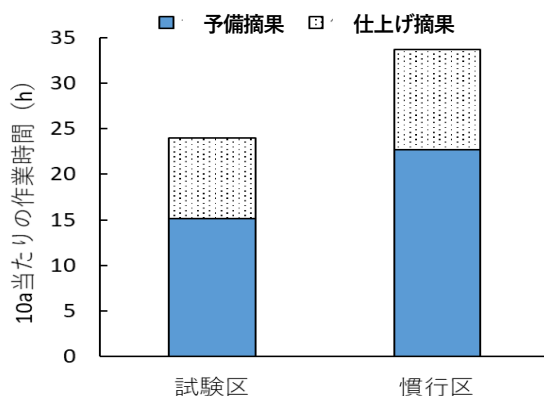


図1 予備摘果と仕上げ摘果に要した作業時間

表1 収量及び果実品質の比較

区	10a収量 (kg)	平均果重 (g)	果実品質		
			着色度	糖度	蜜入り
試験区	2289	442	203.6	15.5	3.00
慣行区	2574	405	203.8	15.7	3.02

※10a収量は、植栽距離9m×8mで換算した。

※着色度はカラーソーター、糖度、蜜入りは光センサー計測値

(JA基準値は着色度185以上、糖度14度以上、蜜入り3以上)

## 4 成果を得た課題名

- 研究期間 令和3年～令和7年度
- 研究課題名 大規模経営に対応できるリンゴの省力・高品質生産技術体系の確立

## 5 主な参考文献・資料

農研機構果樹研究所リンゴ研究領域 2015年の成果情報, リンゴの摘花剤散布は果実を肥大させ、摘果剤との併用で摘果作業も省力できる